

第26回YOSAKOIソーラン祭り



北と南の絆、更に固く！

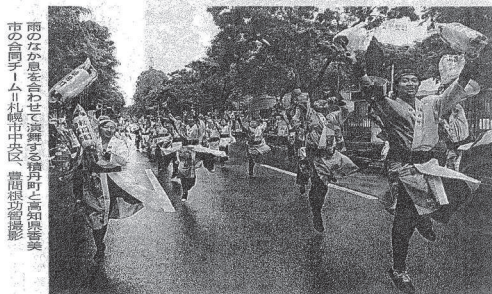
息の合った演舞を披露！

北海道の初夏の風物詩「第26回YOSAKOIソーラン祭り」に、今年も姉妹都市の高知県香美市との合同チーム「ヤーレンソーラン積丹町&香美市」が、6月10日・11日の2日間にわたり参加しました。積丹町の3歳から76歳までの40名と香美市からの19名の総勢59名がソーラン節と鳴子の乾いた音を響かせながら、札幌市内の5会場で息の合った演舞を披露し、両市町の交流の健在をアピールしました。

今回は、濱田賢二実行委員長を団長として小松紀夫同市議会議員など訪問団6名も来町され、更なる交流の発展を確かめました。また、遠く離れた積丹町と香美市の26年の交流の歴史が知りたいと、朝日新聞記者が取材に訪れ、6月11日の朝日新聞の紙面には両市町の記事が大きく掲載され、交流の輪の更なる広がりを応援してくれました。

今回のYOSAKOIソーラン祭りをはじめ、相互のイベント訪問や両市町の児童による相互交流など北と南の絆はますます深まっています。今後も同市との姉妹都市交流が発展するよう、両市町民の交流の輪を広げていきましょう。

2000キロの絆 25回目の舞



老若育った市民交流

YOSAKOI 積丹町と高知・香美市

25回目のYOSAKOIソーラン祭りに10日、積丹町と高知県香美市の市民らによる合同チームが出場した。共舞を回からで、交流は四半世紀に及ぶ。「170キロ先をいかにする。今年も互いに出会えた喜びを胸に、念の演舞を披露した。

「北はソーラン節の舞の地、積丹町。南は高知の地、香美市。これまで本舞のYOSAKOI、さら、いびき、ソーラン、威勢のよい声に続き、『ヤーレンソーラン』と『ソーラン』が響き、香美市のチーの『88歳の50人が、雨の大通公園・札幌市中央区、で、その法を習って踊った。積丹町の高校1年生鈴木翔輝さん15歳は、毎回来し、10年参加し、振り付けを担当した香美市、舞止まり、今年も9月2日の舞踏家加藤一佐世さん(89)は「たっさん」に見てもらえて誇りがいがある」と笑顔を見せた。

合同チーム誕生きっかけは1992年、第10Yの香美市での天狗祭りの行流儀に香美市が参加し、2年前には児童の本チームも参加した。

市民らとのつながりも深まっている。高知側では30年ほど前に市民グループ「積丹ファンクラブ」が誕生。30〜70代の約10人が毎年積丹町を旅行している。積丹町では香美市を訪れてのあちこちで佐佐木山田町の公民館に積丹町、同町でいた積丹町職と、土佐山田町職が交際し、第2回は合同チームとして参加する予定が実現した。

約20名、離れた両町は約88歳の50人が、雨の大通公園・札幌市中央区、で、その法を習って踊った。積丹町の高校1年生鈴木翔輝さん15歳は、毎回来し、10年参加し、振り付けを担当した香美市、舞止まり、今年も9月2日の舞踏家加藤一佐世さん(89)は「たっさん」に見てもらえて誇りがいがある」と笑顔を見せた。

合同チーム誕生きっかけは1992年、第10Yの香美市での天狗祭りの行流儀に香美市が参加し、2年前には児童の本チームも参加した。



▲朝日新聞(6月11日朝刊)

第13回 「J.Tの森積丹」 春の森林保全活動 丹呉J.T取締役会長が来町

6月17日、日本たばこ産業株式

会社（「J.T」）と協働しての「J.Tの森積丹2017年春」森林保全活動が開催され、J.T社員や家族の皆さん、町民の皆さんなど約120人が参加しました。

今年で7年目（13回目）を迎えた森林保全活動は、美国川流域エリアで行われ、1回目（平成23年）に植栽したトドマツの下刈作業を行い、晴天の下で、懸命にカマを手に汗を流しまし



た。

午後からは、バードコール作製や丸太の早切り、ビンゴゲームを行い、優勝チームにはJ.Tの森で採れた木材とウニ殻を活用した「ウニのランタン」がプレゼントされました。

また、参加者が心待ちにしていた昼食には、積丹観光協会がシーフードカレーを振る舞い、おかわりに列が出来るほど好評でした。

今回の活動には、J.T取締役会長の丹呉泰健氏（写真左上）も参加され、参加者と一緒に下刈作業を応援されました。丹呉

会長は、全国に9箇所あるJ.Tの森の中でも最大規模を誇る「J.Tの森積丹」と半島最先端の町の景観と立地に大きな期待を寄せていました。

この森は「海を育む水源の森に」という理念の下、森林整備



や保全活動を平成23年度から行っています。当町の基幹産業を支える水産業を守るためにも必要不可欠な活動です。

今後もJ.Tの皆さんをはじめ、国・道の関係機関の皆さん、町民の皆さんの参加をいただきながら、『海を育む水源の森』保全活動や、当町が誇る様々な地域資源を活用した取組を進めていきたいと思います。

第4回 どっとい積丹 さくらます祭り

5月27日、余別町のサクラマスサンクチュアリーセンターで積丹観光協会（佐藤勝次会長）と余別・海HUGくみあい（澤貴幸会長）が協働する「どっとい積丹さくらます祭り」が開催され、あいにくの天候にもかかわらず、町内外からの来場者でにぎわいました。

今回で4回目となるさくらます祭りでは、サクラマスの稚魚の放流や豪華景品が提供された「げんきの森宝さがしゲーム」が行われたほか、『地元漁師の「積丹市場」』では、獲れたての鮮魚の販売も行われました。



昼食には地元若手漁師などが腕を振ったサクラマスのチャンチャン焼きなどが振る舞われ、来場者はサクラマスと余別の自然を「学び」と「食」の両方で楽しみました。

豊かな海を育むための「森・川・海」の栄養循環を支えるサクラマス。サクラマスが暮らす保護河川「余別川の価値」を伝え守る取組は、郷土の誇りと、町の活性化・振興に貢献しています。